

令和7年の八代海赤潮発生状況

漁場環境部



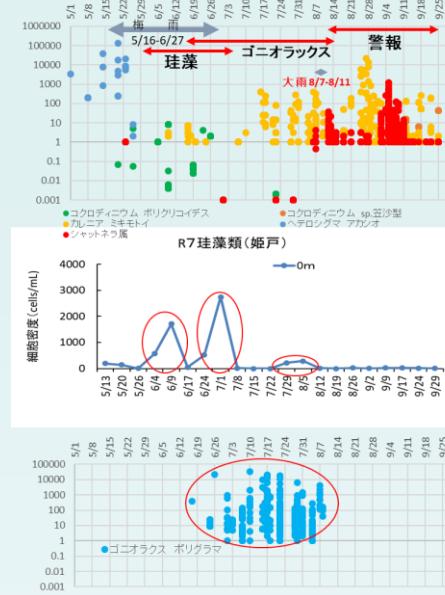
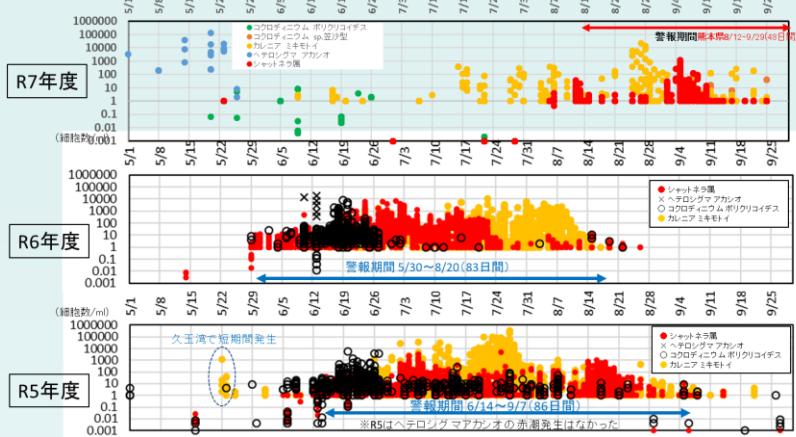
概要

八代海では令和5年、6年、シャットネラ アンティーカ（以下シャットネラ）、カレニア ミキモトイ（以下カレニア）、マーガレフィティニウム ポリクリコイデス（旧クロディニウム ポリクリコイデス 以下クロディニウム）の3種混合赤潮により鹿児島県、熊本県で大きな漁業被害が発生しました。令和7年は、シャットネラ、カレニア、クロディニウム SP.（笠沙）（以下クロ笠沙型）が発生したものの鹿児島県では被害はなく、熊本県においても小規模の被害でした。

令和5~7年夏季に発生した赤潮による被害

市町名	令和5年度 被害金額	令和6年度 被害金額	令和7年度 被害金額
鹿児島県	5,487万円	1億300万円	なし
熊本県	15億4,405万円	14億7,988万円	212万円

プランクトン発生状況



赤潮発生状況

今年度の特徴

- シャットネラ赤潮が晚期発生・短期継続した
- シャットネラ・カレニア・クロ笠沙型の3種が発生・赤潮化した

珪藻プランクトン発生状況

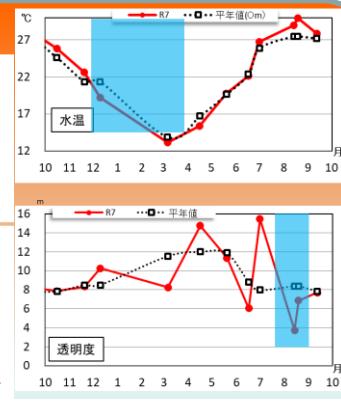
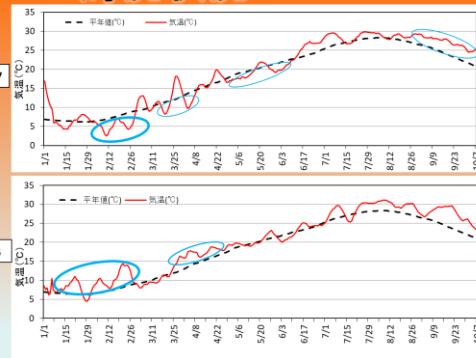
- 有害種と競合する珪藻の発生は好調
- 梅雨が早く栄養塩類豊富
- 梅雨は天気が悪く、時化による適度な水流や波により底質中のシストの巻き上げや珪藻が沈みにくく、栄養や光が十分行き渡った可能性

図 八代海における有害プランクトンの細胞数の推移（データ引用元：赤潮ネット（水産技術研究所）

他種プランクトン発生状況

- 有害種と競合する他種プランクトンが発生
- 無害種 ゴニオラックス ポリクリマが発生（6~8月）
- ゴニオラックスの発生により有害種の発生が抑制された可能性

海況状況



まとめ

【要因】

- 1 R6年12月～R7年4月の水温及びR7年2月の気温が低かったため、シャットネラ属の発芽がR6年度より遅かった可能性
- 2 今年の梅雨入りは昨年より23日も早く、5月から6月の日照時間が少なかったためシャットネラ属の増殖に適さなかった（梅雨入り R7年：5月16日、R6年：6月8日）可能性
- 3 5月下旬から7月上旬に珪藻が増殖。7月上旬から8月上旬はゴニオラックスが発生し、シャットネラ属、カレニアの増殖に適さなかった可能性
- 4 栄養塩の窒素は概ねシャットネラ属、カレニアの増殖する下限を上回っていた。栄養塩のリンは8月7日の大雨以前は概ねシャットネラ属、カレニアの増殖する下限を下回っていたが、大雨以降は概ねシャットネラ属、カレニアの増殖する下限を上回り、警報発出中は栄養塩が豊富で競合種がなく、有害赤潮の増殖に適した海況であった。
- 5 9月20日から23日は大潮で有害プランクトンが滞留しなかったことから濃密化に至らず、また、9月下旬から鉛直混合が進んでいたため低層の酸素が減少するなど、有害プランクトンの増殖が抑制されたため終息した可能性